

山岳漫画

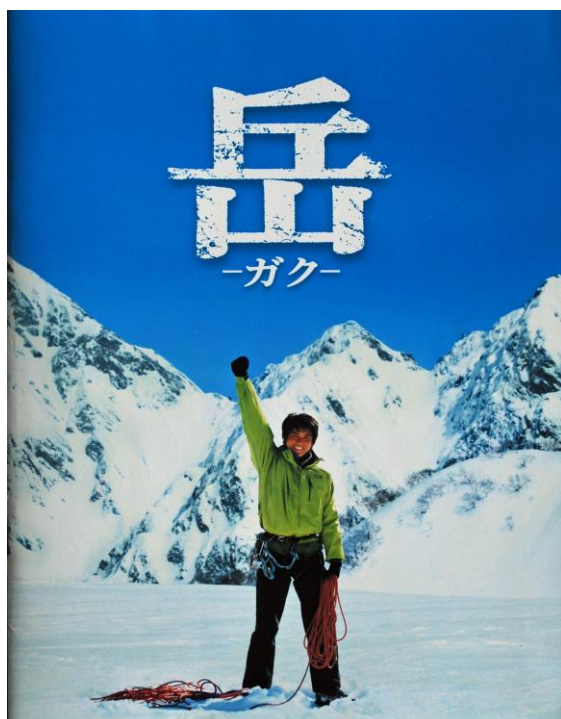
2007.07.15

久家 隆男

近頃、書店で石塚真一の「岳」という本が目立つ所に並んでいる。山岳救助をテーマにした漫画であり、現時点まで4巻が発売されている。北アルプスにおける遭難発生、救助活動、救出又は遺体発見と続くストーリーの短編だが、バリエーションに富んでいて、主人公の山に対する愛着と遭難者に対する優しさに心が揺さぶられる。

主人公である島崎三歩は北アルプスをねぐらにした無職の山男であり、山岳救助活動に協力している。彼は山のスーパーマンであり、地形や地名におかしな箇所がある。また、クライミングに詳しい人なら気になる絵が多いかも知れない。

しかし、多少の難点を補って余りあり、一読の価値が充分あると思う。また、ネットでも話題にされていて、好意的な書評が多い。



追記

「岳」は映画化され、2011年に上映された。主人公の島崎三歩を小栗旬が、山岳救助隊員であってヒロインの椎名久美を長澤まさみが演じている。

「岳」は2012年に全18巻で完結した。

また、長野県は安全登山のために長野県の山岳地域で発生した遭難事例を「島崎三歩の山岳通信」として情報提供している。

山岳漫画はあまり出版されていないが、山好きな若者が多くないことや、山岳描写が難しいことが原因かも知れない。その中で谷口ジローの「神々の山嶺」もお勧めである。これは1997年に刊行された夢枕獏の同名長編小説が原作であり、立派な装丁で全5巻が出版されている。

簡単に紹介すると、森田勝（狼と呼ばれグランドジョラス北壁で墜死した）がモデルと思われる謎のクライマー羽生丈二が前人未到のエベレスト南西壁・冬期・無酸素・単独登頂に挑み、これにマロリー（山頂付近で姿が消え、エベレスト初登頂者だったかも知れない）のカメラが絡む重厚な長編小説である。

漫画は小説とは違ったビジュアル的な面白さがある。山岳描写に関しては谷口ジローが最も優れているのではなかろうか。

「漫画なんか」と言わずに一度御覧になってみると、はまるかも知れません。



追記

「神々の山嶺」は映画化され、2016年に上映された。羽生丈二を阿部寛が、羽生を追う山岳カメラマンを岡田准一が、ヒロインの岸涼子を尾野真千子が演じている。標高5,200mの高所で撮影したとのこと迫力のある映像になっている。